Jasmine

関根悠介

Jasmine
それが
ぼくのビート

Jasmine
その音にぼくは
さらわれる

ひびき
Jasmine
いのり
Jasmine
ゆらぎ
Jasmine
このビートは
しろい夏の
ゆらぎ
ゆらめき

翳す
Jasmine
半覚醒状態の
しろい
真昼の
陰鬱

森へ吹き込む
風
Jasmine
残響

Jasmine
この音は消えない
残響は
森の中の

濃霧

Jasmine
Jasmine
鳥たちのことば

Jasmine
うまく笑えない
Jasmineの微笑のように
ぼくは
何も残すことが出来ない

待ってるよ
たとえ
精神が崩壊しても
たかが精神じゃないか
Jasmine
ぼくはこのビートに
ディレイをかまして
歌いきってしまおうと思ってる

ながれは澱むことがない
Jasmine
11月5日
Jasmine
もう
ピアノを弾く手が
踊ってくれない
踊れないことも
手の
ことば

Jasmine
ぼくの心は
もう壊れていたんだった
ぼくの精神は
もうとっくに
ぼくらは

どんなに引き裂かれても
残響の中の
いきのこりだったんだね

楽器にふれるたびに
Jasmine
きみが映る
ぼくの肉体は
まだ
歌をうたっている
日暮れに
さけぶ
狂人のように

Jasmine
ぼくらは
きみとぼくで
描く世界の中で
生きてきた
同じ年月を
同じ時代を
必要以上に感覚しながら
麻痺させるような
怠惰なことは
してこなかった
痛みを
シラフで味わってきた
自分の肉体を
精神を
影を
声を
切り刻んで生きてきた
きみはそれを

Bless
Jasmine
Bless
息継ぎしないと

陸には辿り着けない
ぼくは
間違ってばかりだけど
どうしても
辿り着きたい
風景があるんだ

原風景
南の王国へ
神秘性
この世界に殺されるなんて
ごめんだから
こころのビョーキは
思考の病態だから
いろんなことに
期待しなくなったら
病んでいったから
地面に倒れるまでの
浮遊感を
楽しもうと思ってる

ひとつのきんちょうが
すぎさるとき
ぼくらは
あさやけのなかへ
かえっていく

Jasmine
Jasmine